

6年2組

 みんなが楽しめる大池に  
 ～大池復活プロジェクト～


## 今日は、大池に水が入った記念日だね

5年時から「大池復活プロジェクト」に取り組んでいます。4月に、今年の総合的な学習の時間について話し合いました。Aさん、Bさんが今年の「わたしの目標」として書いてくれた思いを紹介しながら、小学校生活最後の一年にどんなことを追究したいかという思いをクラスで共有しました。

Aさん

6年での挑戦は、6年生が中心となって行う委員会活動で、4～5年生に分かりやすく説明して全校が楽しくできるイベントを考えていきたいです。そして、大池を復活させて、新一年生と一緒に遊びたいです。メダカももうちょっと頑張りたいです。

Bさん

ぼくは大池を挑戦というよりは、頑張りたいです。5年の頃でできなかった分、6年生で終わらせて、けじめをつけたいです。でも、そのために、みんなが「やり切るんだ」ということも意識して、本気で取り組みたいです。

Aさん、Bさんの思いを聞きながら、「興味があることはいっぱいあるけれど、大池をやりきりたい」「けじめをつけたい」「1年生に楽しんでもらいたい」そんな思いを発表してくれた子どもたち。やりきるとはどのような状態なのか話し合い、水をきれいにしたい、橋を架けたいという思いをもって一年がスタートしました。

ところが、大池は、水を抜いてもどこからともなく泥水が溜まってしまいます。子どもたちは、力を合わせて何とか排水しますが、2時間もすれば水深10cmほど水が入ってしまうし、フナやドジョウ、ザリガニまでどこからやってきちゃう。この水や生き物はどこからやってくるのだろう…。活動をすればするほど、大池の謎は深まるばかりでした。

ただ一つ確かなことは、大池で活動（遊ぶ）することはとても楽しいということ。「1年生に、きれいになった大池でこの楽しさを感じてほしい」、子どもたちのそんな思いはこの半年変わらずにいました。

そして、大池に「まずは」水を入れてみようかとクラスで話し合いました。用水路からポンプをつたって水が大池に注がれます。「イエーイ！」「やったー！」「うおー！」と歓喜の声があがりました。…が、「あれ？」「なんだか濁ってない？」。子どもたちの多くが想像していた大池とは違う姿がそこにはありました。

Cさん：「やっぱり土嚢を取りきらなきゃいけないのかな。」

Dさん：「ふさいだシートの穴がまた開いちゃったかも」

Eさん：「先生、循環させなきゃダメなんじゃない？」

Fさん：「私は、次は循環させたいな」

そこで出会ったのが、この学校を長く管理されている中村先生です。

これまでも、排水作業に力を貸して下さっていた中村先生。中村先生にも、「大池をきれいにしてほしい。」「何とか子どもたちの手でがんばってほしい」という願いがありました。中村先生からは2点教えて



もらいました。1点目は、「もっと水を入れ続ければ大池は循環するような作りになっている」ということ、2点目は、「今は濁って見えていても、時間はかかるかもしれないが、自然浄化されていくのではないか」ということ。

1点目の、「もっと水を入れ続ければ大池は循環するような作りになっている」ということについて、一緒に大池の循環経路を子どもたちと歩いて話をお聞きしました。その話を聞いた子どもたちはさっそくポンプを再稼働させ始めます。大池にどんどん水が入ります。すぐには目に見える変化はないけれど、心をワクワクさせながら大池を見つめます。そして、昨日とうとう循環している様子を目にすることができました。

循環をさせたいと思いを語ってくれたFさんは、「ここからはじまるね」と一言、私に話してくれました。

「水がきれいになるように工夫したい」「滑り台をつくりたい」「船をつくりたい」「橋をかけたい」、子どもたちの「〇〇したい」がいっぱいの大池活動になっています。



## みんなが安全に遊べる橋

古くなって崩れ始めた大池の橋。2組の子どもたちは大池で遊びながら、橋のことを毎回気にしていました。「もう腐ってるじゃんこれ」、「絶対何とかした方がいいよね」、「釘が出ていて（出てきそうで）危ない」

大池を見つめることは、自然体験園全体を感じ取ること。そんなメッセージを子どもたちとの会話から私は教えてもらったような気がします。そして、いよいよ大池の橋の製作に取りかかりました。

橋を制作しているGさんのふり返りです。

昨日橋を作って感じたことは、3つあります。

- ①この橋が15年後くらいまで残るものを作っているって感じたこと
- ②この橋は、大池で安全に遊んだり授業するために、作っていること
- ③師匠（中村先生）が全校の人たちのために「ねじ」を使わないで作っていること

この3つに共通するものは「みんなが安全に遊べる橋」ということです。全校が遊べるように頑張りたいです。

木材をのみで削り、かなやヤスリをかけていきます。“自分達のため”ではなく、“この先の長野小の人達のために”という思いが子どもたちの中で芽生えています。みんなが安全に遊べる橋の完成に向けて活動していきました。

安全に遊べる橋にするために、釘を使わない橋の製作を目指した子どもたち。2ヶ月かけて橋を完成させました。出来上がった手作りの橋は軽トラックが上を通ることのできる程の強度があります。Gさんが願ったように、この先15年、20年と大池に架かり続けることのできる橋。この橋を見る度に、6年生の時の活動を思い出すことでしょう。





## 大池を楽しむイカダを作りたい

大池を楽しんだ子どもたちは、全校のみんなにも大池を楽しんでもらうためにイカダを作ることにしました。ところが、イカダの作り方がわかりません。どんな材料を使えばいいかもわからないという手探り状態です。インターネットで調べてみると、竹を使ったイカダの画像を見つけました。「竹があればできるかも・・・」わずかに希望の光が見えてきた子どもたち。でも「どこで竹を手に入れればいいのか・・・」と私自身も困りました。そんな時、たまたま研修で訪れた南堀の長命寺さんに「竹が手に入るところはご存知ないですか」と、藁にもすがる思いで聞いてみました。数日経ったある日、長命寺さんから連絡があり、『ゆる～い おっさんの会』の藤澤善博さんから譲っていただけそうだとのことでした。早速、藤澤さんに連絡をすると、クラスの活動内容をご理解いただき、応援していただけることになりました。

藤澤さんたちが伐採している竹は、七二会地区で“支障竹”と言われている淡竹です。生活道路に垂れてきて交通に支障をきたし、伐採しても引き取り手がないことから、伐採後も後処理に手間がかかる支障竹。その支障竹が子どもたちの活動のためになるならぜひと、筋のいい100本の竹を事前に用意してくださっていました。

七二会地区の人々の生活を困らせている支障竹が、子どもたちの手によって、大池を楽しむイカダに生まれ変わる。竹に一つひとつ穴を開け、まとめあげる。気の遠くなるような作業ですが、根気強く取り組んでいる子どもたちの姿があります。支障竹が大池の水面に浮かび上がる日が今から楽しみです。

